

第5回 松本市森林再生検討会議

次 第

日時：令和3年2月3日（水）

14：00～17：00

会場：第2委員会室（オンライン）

1 開 会

2 会議事項

(1) 第4回会議の振り返り

(2) 提言のとりまとめ

— 意見交換 —

3 そ の 他

4 閉 会

第5回松本市森林再生検討会議 議事録要約書

日 時 令和3年2月3日(水)

午後2時00分～5時00分

場 所 松本市役所 第2委員会室

(オンライン会議)

(市)

本日の森林再生検討会議はズームオンラインで開催する。

いよいよ今回が最後の会議となるが、本日も意見交換をしていただき、ブラッシュアップして、最終的に1本の提言書としてまとめていただくようお願いしたい。

(原座長)

では、早速議事に入るが、これまでの振り返るような形で、提言のストーリー的なものをボードに書き出したので、説明させていただく。

改めて、今回の提言の目的は、松枯れ対策並びに森林の保全及び里山の利活用、その中長期的な取り組みを検討するということで、提言内容はこれに沿ったものにしなければいけないと考えている。

また、全国どこでも同じような課題を抱えている森林について、松本発で何か再生の新しいモデルができたらいいかなど、そんな思いも込めて期待にこたえられるような提言をしていきたい。

まず、松枯れであるが、松本では四賀地区から始まり10年近くいろいろと対策が行われていきたが、その成果が見られることなく市民の間で対立が生まれてしまった。こんなことから松枯れに対しては、市民に分かる形で提言の中に丁寧な言葉で掲載しなければならないと考えている。

次に森林の保全であるが、健全な森林の持続性の確保ということが求められている中、人間による適度な関与、またそれを促すような、あるいはその方向性を示すようなことを提言に入れ込んでいく必要があると思う。

大きな提言骨子としてはこの2つであり、短期的な面で松枯れ対策の方針、長期的な面で今後の森林管理の方針を定める必要があると考えている。

その中で、里山の定義を整理して定めていく必要があると思うので、後ほど皆さんの意見をいただきたい。

提言書は理想的なビジョンを描くもので、課題もあるが、実現に向けて今後どうしていくか継続した審議、市民会議のようなものが必要だと思う。

あとは、バイオマスエネルギー利用であるが、ここは国民が一番関心のあるところと感じている。しかし、なかなか簡単にはいかない面もあることは承知している。

短期的には、ある程度公的資金を投じて、公共施設等へチップボイラーを導入し松枯れ材を処理しながら出口作りをし実績を積んでいくことが必要だが、将来的には、林業、木材業

が確立されていくことで、本来のカスケード利用の最終段階でのエネルギー利用となり、適正な価格にて民間にも広がっていく、それが理想な流れである。この辺も提言に盛り込みたいと思っている。

防災面については、戸田委員からもご教示あったように、本来マツが生えているところは水のはけがよく崩れにくいところであり、市民が危惧している土砂崩壊は起きにくい。ただ表土が流れるような地質でもあり、それが崩落をイメージさせているのではないか。その辺りの認識のずれを提言の中でも明らかにしたい。個人的な見解としては、最近頻発している崩落は、松枯れと直接的に関係しない部分であり別の要素、具体的には現代土木の工法によるところが大きいと考えている。

市民が関心のある松枯れが災害に結び付いているところと本来の林業や山づくりを考えていく上での防災の観点は、分けて説明が必要かなと思う。

これまでを振り返りつつ、提言をする内容を少し整理させていただいた。

今回の提言では、松枯れについては言及しない予定でいたが、松枯れは防除の限界を迎えていることから、そこを一旦切り替え、提言に盛り込んでいく必要があると思っているが、意見を伺いたい。

(黒田委員)

松枯れ防除の話盛り込むのであれば、松枯れを止めることにエネルギーとコストを最大限にかけるよりも、森林の持続性とか将来のことを考えることが大事であることを理解してもらいたい。

(香山委員)

これからどうしていくかという出発点が松枯れであり、松枯れがなければこの会議がないので、松枯れについてはこういう認識で会議をしますよということをはっきりさせ、その上で持続的な森林、松本市の将来の森林をどのようにしていくのか提言することが大事であると思う。

(原座長)

この点については、非常に丁寧に記載する必要があると感じている。

(大澤委員)

地元では、確かに空中散布をしても効果が弱かったということは理解しているが、ただ効果がなかったとストレートに掲載されると、地元の理解は得られないと思う。

(原座長)

表現の仕方に配慮が必要と考えている。

(黒田委員)

もちろん文言に関しては、最終的には神経を使わなければいけない。私たちの合意として、防除の薬剤散布や伐倒駆除を両方完璧に行っても、もう維持できないぐらいの被害になっているので、マツ林は同じようには維持できないというのが専門的見解である。

皆さんに意見を伺って方針転換をせざるを得なくなった事情をどう表現して分かっていたかどうか工夫が必要だと思っている。

(戸田委員)

今回の会議を実施する根本的なきっかけは、松本市民の意見が割れたことだと思う。

このマツの対策にしても、防災にしても、もちろん住民だけでは解決できないので、市がどう関与していくか、そこに公平性が保てるのかという観点を提言にいられていただきたいと思っている。

(原座長)

提言書(案)では、5つの項目がありますが、プロローグ的なところに今の戸田委員の意見を盛り込み、5つの項目には入れない方がよいと思う。

(香山委員)

この提言は、実話でなく政策の話であり、政策的な課題で森林所有者や市民が無関心になっていることを何とかしなくてはいけないということが重要になってくる。

松枯れの対立もきっといろんな認識の違いから起こっていることで、共通の認識を作っていく、その論議をしていく、そんな場を作っていくことが大事だと思う。

これから先、どういうことを目指して大体どの位の期間で何をやっていくのかというロードマップを示す必要があると考えている。

(大澤委員)

提言の中には、松枯れのメカニズムというよりも、防除はもう限界であるため、今後はこんな再生をしていったらどうかという意見を委員の広い知見で出していただければと思う。

(黒田委員)

提言書のスタートが、これからの方針としていくのであれば、会議の成果、まとめ方としてははっきりすっきりすると思う。

(原座長)

提言の構成をどうしていくか、それと林業の定義であるが里山という言葉がどこまでの範囲を示すのか、使う以上は委員の皆さんと合意しておく必要がある。里山をどういうふうに括るのか、提言ではどうしたらいいと思うか。

(黒田委員)

里山とすると、誤解が出ると思う。今回の会議は森林管理に関する会議であることから、森林で良いと思う。

(香山委員)

松本市に関して言うと、全部が里山であり、全部が林業地である。そんな捉え方が良いのではないかな。

(原座長)

他に何か意見あるか。

(井田委員)

提言書を誰に出すのか考えると、市へ出すのであって、それをどう利用してもらうか、私たちが出した提言を政策に活かしていただくことが大事であるので、香山委員から意見のあったロードマップをある程度示していくことが必要ではないかなと思う。

委員の自己満足で終わるような提言では意味かないと思う。

(黒田委員)

自分もロードマップを示すことは必要であると思う。短期、中期、長期という形で、短期は細かいところまで提言できるし、中長期は何十年後の林業を見据えた説明をすればいいのかなと思う。

(原座長)

提言書(案)の現状と課題については、市から森林行政の現状と課題が提示されたが、これはあくまで行政から見た現状と課題であり、提言に伴うものではないので、(案)でいう現状と課題は委員で考える必要がある。

(香山委員)

ロードマップがない中で、今直面している問題に一つ一つ対応しているので、行政から見た課題は多くの項目として出てきてしまうのだと思う。

いつまでにどういうことをやっていくという、持続可能な森林管理を行っていくためのロードマップが必要となってくる。

市民と専門家とが参加する市民会議があつて、そこで具体的な課題を論議していくストーリーを作っていないと結局うまくいかないと思う。

(小島委員)

専門者会議による提言書を作成するきっかけとなったのは、市と住民の意見の違いから始まったものである。一点目として、その部分をしっかり押さえておく必要がある。

二点目は、森林に森林所有者や市民がどう関わっていくか押さえておく必要がある。そこ

には林業事業体や行政も関わってくることになる。

三点目は、2050年カーボンゼロに対してだが、森林は吸ったり吐いたりで何も貢献していない状況である。循環して利用する状況においては、それを一部エネルギー転換して化石燃料を減らしていくしかないわけで、ここの部分も必要でないかと感じている。

(原座長)

一点目と二点目のところをもう少し具体的に教えてほしい。

(小島委員)

四賀地区で何が起こったのかをしっかりと掲載する必要があると言うこと。

多くの人は森の住民でないので、森林に興味がない中で松枯れ問題で行政と住民が対立していると言うことを伝える必要がある。

根本的に何が本当の対策か、この検討会議に委ねられたわけだから、この部分の経緯や学術的に分かったことをしっかりと掲載して納得していただくようなことをしないと、この会議の命題はクリアできないのではないかということである。一点目はこんなところである。

二点目は、行政としての現状と課題が耕地林務課の視点として出されているが、たとえば環境政策課や政策部が森林をどう捉えているのか、もっと部局の横断的な現状と課題が必要ではないかと思っている。

(原座長)

よく分かった。

(小島委員)

一点目の細かい話ですが、少なくとも市民の皆さんは納税者であり、その方たちが一部だけ報道で知っているのはおかしいと思う。

そういった対立があった中で、新しい市政として調査をした結果、空中散布は意味がなく樹幹注入は一部には効果的だが、森全体を守るということは科学的な有効性は認められないのでやめましょうということを掲載する必要があるのではないかということを言いたかった。

(大澤委員)

それはおっしゃる通りである。

(小島委員)

それと、三点目の件ですが、松本市もカーボンゼロと言ってますが、市として何か具体的な考えがあるのか。

(黒田委員)

2050年カーボンゼロという言葉をいろんな市町村で掲げてきてるが、その目標等、具体的なロードマップや情報が耳に入っていない。市はどう考えているのか。

(市)

市が宣言した内容は先日お送りした内容のとおり

(小島委員)

幸い長野県は寒いので、家計に占める暖房の費用の比率は高いため、そこで消費される灯油を減らしていくことはカーボンゼロにする上で、非常にコストミニマムでできる施策である。そこを地方の自治体で始めることが大切であると言える。

(原座長)

単純に森林の枠組みではないわけで、その視点は必要だと感じる。

骨子が固まってきた気がしてきた。

(香山委員)

提言については、松枯れから始っているので、全体のトーンとしてネガティブな空気になってしまいがちである。

実は松本の森林は、マツは枯れているが、これだけのストック、いわゆる蓄積量があり、価値がある、これは地区全体に貢献できることなんだとポジティブ感を出していくようにした方が良い。

(原座長)

その通りだと思う。

それから、せっかく県の方がいるので伺いたいですが、今回の提言を受け、市である程度方針を決め、国県の補助金を受けるときに国県の枠組みがあることによってベストな進め方ができないということが往々としてあるが、事業内容に応じた縛りのないような林政にしていくことは可能なのか。

(オブザーバー千代課長)

提言を受けて、市で事業の考え方がまとまったとしても、国県がその内容をどうサポートしていくか、これは行政機関同士で要望を聞いたり調整したりという中での話になってくる。その前に、市が事業の意思決定をして新規事業として予算化することは大変なことであり、そういう意味からすると、提言後、事業を計画し予算化していくことは気の長い話になってくと思う。

今回のこの提言は、すぐ予算をつけて、施策を打ち出すという形ではないと思うので、長期的なビジョンであるとか方針を市としてどのように出していくかの根拠となる提言になればよいと思う。

(原座長)

ありがとうございました。よく分かりました。

(香山委員)

提言の中身をどうしていくかある程度議論が尽くされたと思う。それに向けて最低限の文書を作成していく必要があるが、これをどういう手順で行っていくか、その辺を協議する必要があると思うが。

(原座長)

何かアイディアがあるか。

(香山委員)

委員からの出てきている文章は、上手に編集しながら採用しなければならない。それと本日論議の中で出た意見も盛り込む必要があると思う。

これを事務局にすべてお願いという訳にはいかないので、提言の具体的な文書化は大変なワークになることから、座長、事務局、事務局も大勢でなく代表1名くらいで、あと委員1名の3名くらいの人数でまとめていくようにしてはどうかと思う。

まとめた案を各委員に確認し、この作業の繰り返しで作成していけばと思う。
提言する日は決まっているのか。

(原座長)

3月22日か23日を予定している。

(戸田委員)

本来、提言書の作成はコンサルタント業者が入って行うべきであったと思う。

委員のもう1名であるが、やっぱり課題を明確にしてそれに対するロードマップを作ることが1番の骨になるので、香山さんをお願いしたいと思うがどうか。

(原座長)

香山さんいかがですか。

(香山委員)

そうなるかなと思っていた。

いずれにせよ、なるべく早く作業をしていかないと年度末になって、皆さん忙しくなってくる。

(原座長)

作業の日程調整は個別に行うようにする。

(市)

第5回の会議で本日が最終となるが、本日も長時間に渡り活発な意見をいただきありがとうございます。

うございました。

この会議は耕地林務課と政策部が中に入る形で委員会を立ち上げ行ってきた。提言書もコンサルを入れるべきだったと意見もあったが、今回の会議は市が案を出して行っていくのではなく、全くゼロベースからの手作りといった形で、市として初めてのパターンであった。

この会議でいただいた意見も、実現に向けてしっかり対応をしていければと思っている。今後も、市政への助言等をいただきたいと思います。

(原座長)

それでは今回の会議を閉じます。ありがとうございました。

【今後の予定】

○ 市長への提言

日 時 3月22日(月)もしくは23日(火) 時間未定

場 所 未定

以 上